

ご先祖様の存在

先月の3月20日に亡き父親の七回忌法要を営み翌日お墓参りをしました。(写真は法要を催した家)

私は毎月母親とお墓参りをしています。お墓に参るといふよりご先祖さんに報告をしているだけですが、毎月お参りする理由は毎日元気で家族も社員も過ごしているのを遠い所から眺めて、見守って欲しいと言う思いからです。毎月お墓に参ったからご先祖さんが何かをしてくれるのではなく、子孫の我々が毎日を普通に生かして頂けるよう、間違っただ道を歩まぬよう導いて欲しいと思っているからです。

私は仏教徒ですが、何も特別な事はしていません。日本人として生まれ、しかも服部と言う家に生れてきた以上、子孫を作り育て上げ一人前の社会人として送り出すことのみが私の責任であって、好きで材木の商売を継いだ以上お墓参りをする事は、毎月亡き父親、亡き祖父に報告する極々当たり前の行事なのです。

ご先祖さんを守ると何か特別なことをしていただけたらと思った事は一度も有りません。と言うよりご先祖さんに守っていただくためには、何をすべきかを考え、一材木屋としてどうやって社会にどう携わっていくか社会貢献とは一体何かを考えているだけです。

もし材木屋と言う商売が本当に社会貢献の出来ない世の中になればあっさり撤収します。今は撤収しなくても良いよう頑張っているだけです。私の書いている服部新聞は、材木屋と言う分野の仕事が皆様の信頼を得て、あくまで黒子的な存在では有りますが、正しい木材の使い方を伝えるのが仕事ですし、正しい使い方をアドバイスするのが材木屋の使命だと思っています。

しかし環境問題等で社会から退場を申し立てられた場合、撤収をせざるを得ない場合も将来くるかと思っ

ていますが、頑張って正しい木材の使い方を知らせようと思っています。

法事の時いつも感じて直ぐ忘れる事を是非書かせてください。それは人間の煩惱と『人間は凄く勝手な生物です。自分が努力したからそれなりの報われ方をして欲しいとか、何で自分だけこういう目に合うのかとか』言いましょか、実に勝手な事をいつも思うのです。今月号の後の記事で書きますが、人間の煩惱つまりエゴを将来もずっと地球上で実現出来るのでしょうか。産業革命以降、地球環境を汚し地球の多くの人間以外の生物を葬りさってきたのは事実です。今でも遅く有りません。反省して日本人の知恵で今より環境負荷の少ない世の中を作る責任があると思います。

ところで18歳の息子は材木と全く関係の無い学問

【臨床心理士】を選考しました。息子が継ぎたくなくなるような会社に仕上げる事が私の責任で有って無理に家業を継がせようとは全く考えていません。

私が主に建築士さんに服部新聞を送ってから丸四年が過ぎましたが、お便りを頂き色んなお知らせ等も数多く寄せられています。そのなかには教えられた事も凄く多く有りました。その教えをよくよく検証してみると日本人のルーツに到達するので

す。我々日本人は昔から資源の少ない国である事は理解してました。その証拠は江戸時代から木曾の山が幕府から統制されていた事で解ります。

しかし戦後統制された森林が全面的に自由化された事が森林破壊に繋がり、そして今日のヒノキ・スギしか無い森林にしてしまった責任は我々の責任だと思っています。

何もかも規制を緩和する事は正しくない。正しい規制が有っても良いのでは。



自然保護と経済活動を上手くバランスさせる必要が有る

昨今の経済状態は最悪の様相を呈しています。政府は大掛かりな景気対策をして底抜けだけは、阻止しようと躍起になっていますが、現在進行している地球温暖化を止める事と本当に両立するのでしょうか。

去年七月の北海道洞爺湖サミットで地球温暖化に対して断固として取り組もうと方針が決まりました。そして日本国も当時の福田首相が発言した長寿命住宅(200年住宅)と言うシンボリックな表現では有りますが、循環型の経済活動を目指そうと言う大まかでは有りますが、コンセンサスはある程度日本国民にも浸透したと思います。

しかし昨今の経済危機克服の為に先月から始まった、週末の高速料金1000円で乗り放題と言う景気対策は地球環境の保持と本当に矛盾しないのでしょうか。私は凄く葛藤を覚えています。

3月末のあるテレビ番組でロシアのアムールヒョウが絶滅の危機に追い込まれていると取り上げられていました。その番組の中で『宇宙船地球号は凄く多くの部品から成り立っていてアムールヒョウも部品の一つです。もし失われたらもう取り返しのつかない部品です。』こう表現されていました。そして番組の中で広葉樹のタモ材らしき立ち木が写っていましたが、タモ材の利用は地球環境の保全と矛盾なく使う方法が有るのか無いのか凄く葛藤を覚えました。タモ材は貴重な木材(大体ロシア産の広葉樹原木の樹齢は大よそ250年生)です。現実にはタモ材は地球の営みから見ると正しく使われていません。と言うのはタモの家具及び住宅の寿命は大体30年位ではないでしょうか。250年と言う数字と比較すると使い捨てと言ってもおかしくないのではと思います。

今盛んに言われている長寿命住宅と言う政策にしても、今の経済の仕組みと労働の仕組みだけで論じられていますが、それだけで果たして正しい政策になるのでしょうか。非常に疑問に思います。

長寿命住宅を一つの題材にて説明します。長寿命を作る為のメリットとデメリットを分けて考えます。

メリット

長く使う事で新たなCO2発生が少ない。
化石燃料の消費が少ない。
個々人の経済負担が少ない。
リフォームが主流になる。
職人が必要になる。
人手が必要。
人手が不足している。
職業訓練が出来る。

デメリットもしくはリスク

⇔ 経済活動が活性化しない心配が有る。
⇔ 保護主義的に陥りやすい。
⇔ 経済成長が鈍化する。
⇔ 新築が減少する。
⇔ コストアップに繋がる。
⇔ 育っていない
⇔ 人手を要請出さなくては行けない。
⇔ 職業訓練が出来る先生が少ない。

メリットとデメリット・リスクはまだまだ多く有ると思いますが、私の思いついた事はこれ位です。

我々は物を大事にして長い期間使う事は決して間違いではないと思っています。特に日本人は物を大事にする習慣の有る民族です。又日本人の対自然に対する考え方は先進国の中でも優れている様に思っていますが我々が作ってきた秩序が本当に地球自身にとって正しくないなら正しい秩序を構築する必要は当然有ると思います。地球環境の保全が物を大事に使うことで守れるなら我々日本人が一番得意な分野ではないかと思えます。地球と言う生き物の中で人間が生き物の中で頭脳が一番発達していますが、問題を起こすのは人間だけです。

地球環境を守る事、つまりこれ以上の温暖化は防ぐ必要が有る事は地球人全体の、コンセンサスは取れる事には違いないと思いますが、多くの問題は残っているように思えます。

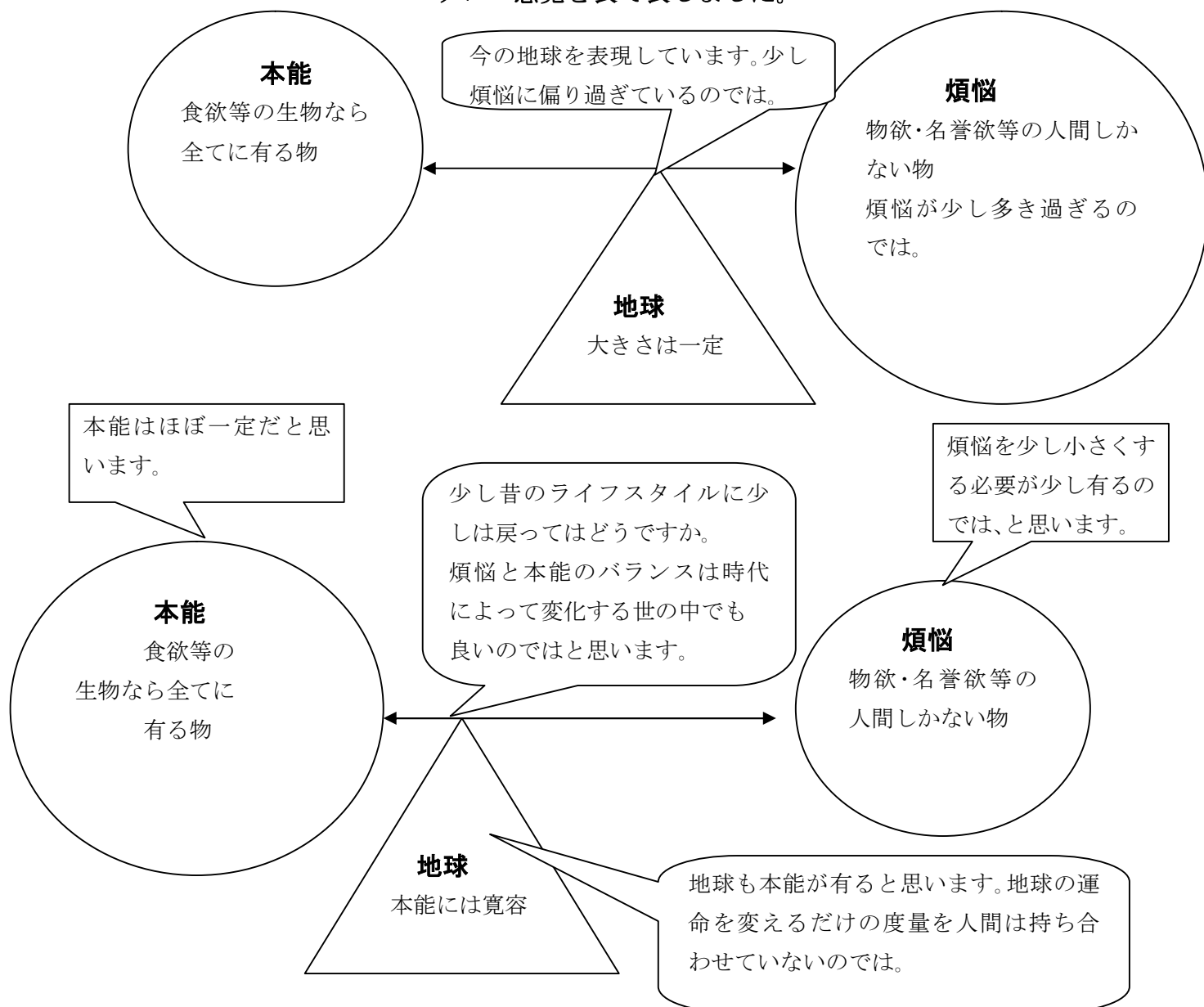
地球環境を研究している専門家は国連のIPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change: 気候変動に関する政府間パネル)が最近発表している数字より温暖化は進んでいるのではと警告を発しています。もしそれが本当なら、多少のエゴとか、矛盾は乗り越えなくては行けないのではないのでしょうか。乗り越えられなくて、減ぶのは人間達だけではないのでしょうか。最近の日本(ソメイヨシノの開花が全国的に一週間程度早い)でも我々国民が感じている気候変動が本当に警告ならその警告に真摯に耳を傾け温暖化防止に努めて、防止策を実行していかなければならないと思います。

我々日本人は世界の方々から尊敬されている民族です。戦争放棄を唄っている日本国憲法は地球上で一番優れた憲法だと賞賛されています。しかし法律はあくまで人間対人間の関わり方のみを示しているに過ぎないのではないのでしょうか。人間対自然の摂理を歌う法律が必要ではないかと思います。人間は地球の豊かな自然の恵みによって単に生かされているのにすぎないのが現実なのに対人間を取り締まる法律が無いのは如何なことでしょうか。自然が人間を取り締まる法律は作れません。無い為に自然が気候変動を起こし人間界に警告を与えているのです。警告を真摯に受け取りたいなら人間のエゴを取り締まる法律が必要ではないのでしょうか。ここまで考えるのは考え過ぎなのでしょうか。考えすぎだとは私は思いません。現実的に世界的に人間の考えた金融で不況が我々自身に襲ってきた事は厳然たる事実では有りませんか。昔から伝わってきた物作りの仕事をしているより、ただ単にお金を動かしているだけの方たちが多くの報酬を貰っているのは地球の摂理から見て大変可笑しくはないのでしょうか。お金は対人間しか貢献しません。

しかし例えばお米を昔ながらの作り方をして消費者に安全なお米として喜ばれている方達は、決して自然に負荷をかけていません。そう言う安全なお米を食べたいと言う欲求は世界的にも増えていると思います。現に日本のお米が輸出されている事でその証になっていると思います。自然に負荷をかけない方が、人間の幸福も同時に享受出来るのです。日本人の一番得意な分野を原点に立ち返り自然の尊厳を見つめなおす必要が有ると思います。

ところで木材は石油等の天然資源と比較すると短い時間（長くても200年相当）でリサイクル出来る唯一の天然資源です。しかし現在の日本人の価値観では木製品及び木の住まいの寿命は短すぎると思います。木材をもっと上手く使う方法は必要だと思います。別紙アンケートを用意しています。今後共服部新聞で皆様と共に考えたいと思いますので宜しくお返事を頂けます様お願い致します。

バランス感覚を表で表しました。



国産広葉樹原料の現実

日本の広葉樹原木の品質は、昔は世界最高トップレベルの水準でしたが、昨今の状態は著しい品質低下をしています。具体的にその品質劣化の状況を話させて下さい。

1. 径級の劣化 → 直径60センチ上の原木の枯渇。直径40センチ台が主流になっている。
2. 長さの劣化 → 長い長さ（EXカウンター等）が必要な商品が出来にくい。
3. 木口の劣化 → シラタが深くなり赤身が少なくなる。
4. 原木のなり(姿形)の劣化 → 曲がっている原木が主流になり直材の原木が皆無になっています。
5. 懐の劣化 → 外面では解からないキズが中から出る。
6. 外観の劣化 → 姿形の悪い原木が多数を占めている。

以上六項目の品質低下の現実の事を書かせて頂きましたが、1～2の項目は木材の知識の無い方も明細だけで理解出来ると思いますが、3～6の四項目は一般の方は理解する事は難しいと思います。特に5の懐の劣化は凄く理解しにくいと思いますが出来るだけ解かり易く書きたいと思います。

3～6の項目は重なり合っている所が有りますので実例で説明させて下さい。

広葉樹原料の中でシラタが珍重されるカエデ類を除き大抵の広葉樹は赤身が珍重されます。

広葉樹と言っても多くの種類が有りますので日本しか無い樹種【カツラ・セン・ホオ・マカバ】の中でカツラ原木を例にさせて頂きます。

買い付けの時最初に原木を見ると、一番に見えて来るのはボリュームです。つまり原木の径級です。20年昔なら径級80センチを越える材も相当な数量有りました。当時の銘木市を思い出すと100本のカツラ原木が出品されていれば最低10本は有りました。しかし現在はボリュームが有っても60センチ迄です。実に20センチ細くなっているのです。次に長さですが、4～5メートルの直材原木が有りました。現在は曲がりくねっていて明細の上では5メートルは有りますが、長いまま製材出来なく3本に切らねばならない材ばかりです。これからの項目が一番解かりにくい事です。昔の材はシラタが1寸5分位の材質の材ばかりでしたが、現在はシラタの方が多く服部商店の専門言葉で通称『日の丸』ばかりの原木が主流を占めています。



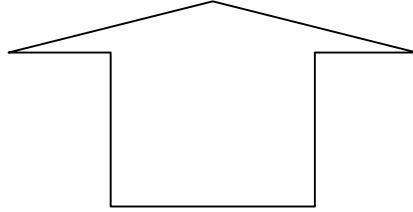
- ← カツラ原木
- ← 日の丸(シラタが多い)
枝落ち(もこもこ) →
皮を剥くとキズ
が出てきます
腐りが出てくる
可能性が大きい。



そして買い付けしてからしか解からないケースが本当に多くなって来ています。製材の前に皮を剥くのですが、剥くと目新しいキズが現れるのです。これは服部用語では『枝落ち』と言う表現をしています。部分的に腐っているのです。枝落ちとは二三十年かもう少し昔に枝が落ちます。そしてそこに穴が開きます。その穴から水が本体に浸み込むのですが、成長していく過程で皮が表面を覆ってくるのです。買い付け時に見つけれないのです。原木を引き取って全体を細かく見れば枝落ちの場所は解かりますが木材展示場で発見するのは不可能だと思います。次に枝落ちの無い原木でも新たな欠点が出現します。それは以前とは全く違う欠点です。死節が凄く多いのです。木は成長します。成長する為に枝を伸ばします。節は枝です。節が無かったら木では無いので有って当たり前ですが、節を避ける様に製材するのですが、節が死んでいる為にキズを避けきれないのです。最近製材した直径50センチの原木で言えば皮から10センチ位だけが使えるだけで中は節と節からの水割れで何も取れない材質の原木にも出合いました。

以上私が広葉樹原料の中で一番目か二番目に劣化が著しいカツラ原木を例に出しましたが、いずれにしても先々将来はタモもナラもカツラと同じ様な運命を迎えるのだと思います。

FAX 072-422-8577



アンケートを御願ひ致します。

1、長寿命住宅は必要である。

はい

いいえ

2、1の質問ではいの方に御願ひ致します。長寿命住宅の寿命は最低何年だと思ふ。

50年以上

70年以上

100年以上

3、2の質問をお答えした方に御願ひ致します。長寿命住宅に必要な物は何ですか。

税制

職業訓練

教育(物作り)

3、それ以外にあれば具体的に書いて下さい。

会社名	
お名前	
ご住所	
お電話番号	